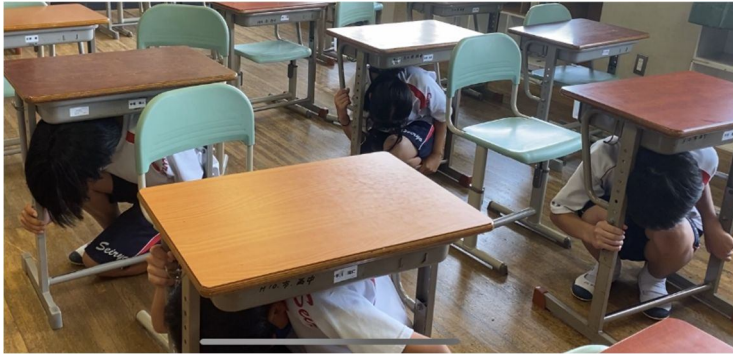




土岐市教育研究所	
TEL 0572-54-1111 (内374)	
FAX 0572-55-6310	
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp	
所報 No. 578	
発行責任者 所長 西尾 実	
発行日 令和6年 11月 18日	
題字 長谷川 広和 教育長	



「西陵中『防災部』による 危険回避方法の研究」

撮影 西陵中学校

松下幸汰 先生

体験格差

土岐市教育研究所長 西尾 実

「親の協力が必要で、クラブをやりたくてもできない子もいる。」

土岐市地域クラブに所属する中学生が答えたアンケートの回答です。

核家族やひとり親家庭の増加は、子どもの体験格差を生み出しています。子どもがいる世帯の約8割が核家族です。今年度、スタートした土岐市地域クラブへの中学生の加入率は35%と、決して高いとは言えません。高くない理由の一つに保護者の経済的理由と時間的理由（送迎や当番活動など）があるのではないかと思います。

「体験格差」の著者、今井悠介氏は、子どもの体験格差に特化した全国調査（令和4年）を実施し、世帯年収300万円未満の家庭の子どもの約3人に1人が、1年を通じて学校外の体験活動（スポーツや文化芸術活動、自然体験、社会体験、文化的体験）を何もしていない。また、ひとり親家庭の多くは、準要保護等の公的援助費をスポーツ等の体験よりも子どもの学習を優先して使う割合が高いと報告しています。厚生労働省によると、子どもの相対的貧困率は11.5%（令和4年）です。土岐市の調査（令和6年3月実施）では、小中学生保護者の9.6%が低所得層の家庭（基準値世帯収入141万円以下）で、そのうちの48.7%がひとり親家庭であ

ることがわかりました。

学校教育課の窓口にて公的援助や奨学金等の相談に来る女性をよく見かけます。ひとり親家庭の方がほとんどです。日常的な祖父母による援助がなく、孤立した子育て環境にあることが多く、物価高騰も重なり、子どもにやりたいことを我慢させなければならないのでしょう。経済的な面だけでなく、時間的理由（送迎や当番）も影響していると思います。今井氏の調査結果によると、低所得家庭も10歳までは体験に費用をかけるが、受験が近付く中3にかけて一気に学習を優先させる傾向が強いようです。

全ての小中学校の修学旅行等が無事に行けて何よりです。スポーツや文化活動などの体験は、子どもにとって、他者とのつながりを育む大切な機会です。子どもをどこにも連れて行けない家庭にとって、修学旅行等の学校で行う体験活動は、仲間とのかけがえのない思い出となる何よりも代えがたい貴重な体験です。準要保護援助の修学旅行費や校外活動費は上限があります。体験学習費用も高騰しているようです。簡単に金額の引き上げを検討するのではなく、「学級のみならず一緒に見た夕日はプライスレスだった。」と、子どもに言わせる体験の演出ができる先生がいる学校でありたいと思っています。



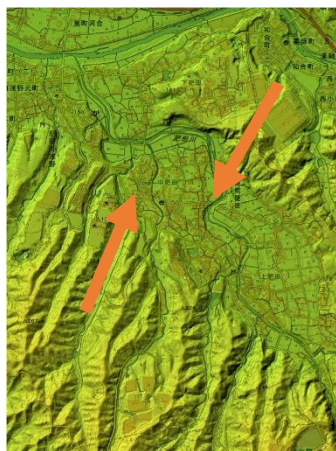
地域の防災を考える



肥田中学校長
鈴木 雄詞

昨年度、肥田中学校に赴任して、私が最初に取り組んだのは、「肥田町を知ること」でした。元来、体力には自信がありましたので、何日かに分けて地区内を散策しました。

肥田地区の東西の丘陵地に入っていくと、木々に囲まれてひっそりとたたずむ小さな砂防堰堤がいくつも見られました。周りには通学路や住宅もあります。肥田町の中心を流れる肥田川には、丘陵から幾筋もの沢が流れ込んでいます。地形図を見ると土砂災害（土石流）や浸水害に弱い地形であることがわかります。



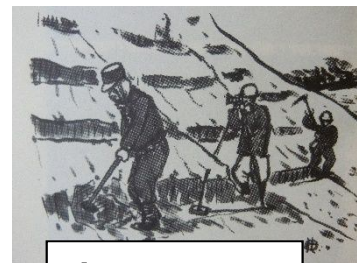
（右図：国土地理院）砂防がひとつ重要な要素となることがわかりました。中学校の敷地は高いところにありますので、直接的な被害は少なそうですが、北・東・西の急傾斜地が土砂災害特別警戒区域に囲まれているため、災害が発生すると、学校は孤立する可能性があります。また、肥田川周辺は土地が低く、川自体も大きく蛇行している部分があるため、浸水害の危険性は高いと考えられます。土石流発生時や大雨による浸水時にはどんな行動をとって自分の命を守り切るかということを、生徒たちと考える機会が必要だと思いました。

近年では、全国で自然災害が頻繁に発生するようになりました。今年だけとって見ても、1月1日の能登半島地震、7月下旬には、山形県で線状降水帯が発生し大雨特別警報が発表され、救助要請を受けた警察官がパトカーごと流されて殉職されるなど、多くの被害が出ました。

夏の暑さも記録的で猛暑日が続き、平均気温が2度以上上昇しました。8月8日には、日向灘を震源とするM7.1の地震が発生し、宮城県で震度6弱を観測し、初の南海トラフ地震臨時情報が発表されこの地方にも緊張が走りました。そして

8月終わりに迷走していた台風10号も九州だけではなく全国各地に豪雨をもたらしました。まさに、予断を許さない危機的な状況です。

幸い私たちが住む土岐市では大きな災害は発生していませんが、過去を調べてみると、土石流や洪水の被害は50年ほど前までは頻繁に起きていたようです。今でこそ緑豊かな山々に囲まれています。100年ほど前は、赤茶けた山肌に覆われたはげ山だったそうです。それは肥田町のみならず、土岐市全体に及んでいたそうです。ご存じの通り、この辺りは800年ほど昔から発達してきた陶磁器産業が盛んな地域で、山を削って粘土を取ったり、窯で使う大量の薪を伐採したりしてきました。その結果、山の木をほとんど切ってしまいました。もともと地質は軟弱ですので、少し強い雨が降ると土石流が発生し、田んぼに流れ込んだり、土岐川や肥田川もしばしば氾濫しました。そこで、昭和7年から国の事業として、人力で山の斜面を階段状に整地して木を植えていきました。この作業は実に40年間続いたのです。当時の肥田村の多くの住人もこの工事で働いたそうです。そのおかげで植えられた木もすっかり大きくなって里山を形成し、土砂災害を防いでいるのです。



「ひだのあかり」より

このように、人々が力を合わせて、安心して暮らすことができるまちづくりを進めてきたおかげで今の肥田町があります。その中で、子供たちは温かく大切に育てられているのです。

今年の3年生の修学旅行は、神戸市や淡路島を訪れ、過去の災害について学んできました。また、学校では日ごろの避難訓練に加え、災害図上訓練も取り入れ、災害時には自分や周りの命を守る力を身に付けさせたいと考えています。

今の子供たちが大人になって、肥田の人々の安全な暮らしを守っていけるように、今後一層、防災について考えていきたいと思っています。

令和6年度土岐市嘱託研修員会

「やってみたい」を引き出し、「できた」「わかった」と実感できる授業の実現～終末からの授業改善
実践報告 肥田小学校 橋本 梨々子

【日 時】令和6年 6月20日（木） 第5校時

【学 級】肥田小学校 6年B組

【単元名】分数のわり算

【本時のねらい】

分数、小数、整数の混じった乗除計算の仕方を考える活動を通して、小数を分数で表せば、どんな小数でも分数で表せたり、かけ算の式に統一できたりすることに気づき、小数や整数を分数で表して計算するとよいことを理解できる。

描く具体的な終末の姿

・小数や整数を分数に表して計算しようとしている姿

$$2 \times \frac{3}{7} \div 0.9 = 2 \times \frac{3}{7} \div \frac{9}{10} = \frac{2 \times 3 \times 10}{1 \times 7 \times 9} = \frac{20}{21}$$

・「小数、分数、整数のまじったかけ算やわり算は、小数や整数を分数で表して計算するとよいね。これからは、そのように計算しよう。」

【導入】課題意識

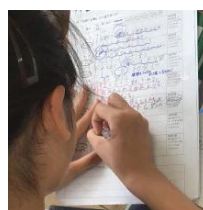
「あれ?」「なぜだろう?」「やってみたい!」



唯一、学習していないのは「小数と分数」の計算だね。

【終末】学びの実感

「できた!」「わかった!」「もっと知りたい!」



これからは、小数と分数が混じった計算は、分数で表して計算しよう!理由は…

本時の授業を通して、できるようになったことや分かったこと、理解に至ったプロセスを振り返り、自分の変容を実感できるようにする。

【展開】個別最適な学びと協働的な学び

「～すればよいのかな?」「～してみよう!」「～に聞いてみよう」「そうか!」「なるほど!」



個人追究の際に、教科書やヒントカードを参考にしたり、教師や仲間と自由に関わったりするなど、必要に応じて学び方を選択できる環境をつくる。



分数で表すと良いと思う。その理由は…



本時のねらいに関わる「問い」について、類題をもとに仲間と深く考える時間を設定することで、一人一人が「分数で表す良さ」に気づき、表現できるようにする。

実践を終えて

- ・交流の問いを与えた後に類題を提示したことで、一人一人が「分数にそろえて計算するとよい理由」を意識しながら類題に取り組み、意見をもった状態でスムーズに交流に入ることができた。
- ・二度問うたことで、仲間とともにより深く考え、全員が本時のねらいとなる「分数にそろえて計算するとよい理由」について表現することができた。

展開詳細

	学習内容および学習活動	指導・援助
つかむ	1 問題把握 問題 $0.3 \div \frac{3}{2} \times 3$ の計算のしかたを考えましょう。 ○前時との違いから、課題を見出す。 ・前時とは違い、小数と分数と整数が混じった計算になっている。 ・かけ算とわり算が混じった計算になっている。 課題 小数、分数、整数のまじったかけ算やわり算は、どのように計算すればよいだろう。 ○見通し ・小数か分数、どちらかにそろえるとよい。 ・小数を分数で表す。分数を小数で表す。	・教科書 P59 を見て、分数どうしの乗除計算で「約分」や「逆数」を使ったことを想起させたり、四則計算の中で「小数と分数の乗除計算」をまだ習っていないことを確認したりする。 【導入ーやってみよう】 ・単元導入時で確認した「既習・未習の計算を整理した表」を再提示し、本時で小学校課程の四則計算の学習が完結することを共有し、意欲付けを行う。 ・前時までの学習との違いから、本時の課題を見出す。 「小数か、分数どちらかにそろえれば良いと思う。私は、分数を小数で表して計算してみよう。」 「私は分数で表して計算してみよう。」
深める	2 個人追究 A：小数を分数で表す。 $0.3 = \frac{3}{10}$ 式 $\frac{3}{10} \div \frac{3}{2} \times 3 = \frac{3}{10} \times \frac{2}{3} \times 3$ $= \frac{3}{10} \times 3$ $= \frac{9}{10}$ B：分数を小数で表す。 $\frac{3}{2} = 3 \div 2$ $= 1.5$ 式 $0.3 \div 1.5 \times 3 = 0.2 \times 3$ $= 0.6$ 3 全体交流 ○考えを発表する。 ・A「私は、小数を分数に直しました。0.3 を分数に直すと $\frac{3}{10}$ になるので、式は $\frac{3}{10} \div \frac{3}{2} \times 3$ になります。まず、$\frac{3}{10} \div \frac{3}{2}$ の部分はわり算なので、$\frac{3}{2}$ を逆数にしてかけ算に直します。式が全てかけ算になったので、約分をして計算します。答えは $\frac{9}{10}$ になります。」 ・B「僕は、分数を小数に直しました。$\frac{3}{2}$ を分数に直すと 1.5 になるので、式は $0.3 \div 1.5 \times 3$ になります。計算すると、答えは 0.6 になります。」 4 類題① A：小数を分数で表す。 $0.2 = \frac{2}{10}$ 式 $0.2 \div \frac{2}{3} \times 3 = \frac{2}{10} \times \frac{3}{2} \times 3$ $= \frac{3}{10} \times 3$ $= \frac{9}{10}$ B：分数を小数で表す。 $\frac{2}{3} = 2 \div 3$ $= 0.666\cdots$ 5 少人数交流 ○類題①を解いて、気付いたことを交流する。 ・分数を小数に直そうとすると、割り切れないことがある。 ・分数は、どんな小数でも分数に直せる。 ○さらに類題②をもとに、交流を深める。 式 $\frac{5}{6} \times 0.6 \div \frac{3}{8} \times 3 = \frac{5}{6} \times \frac{6}{10} \div \frac{3}{8} \times 3$ $= \frac{5}{\cancel{6}} \times \cancel{6} \times \frac{4}{3} \times 3$ $= \frac{5}{\cancel{6}} \times \cancel{6} \times \cancel{4} \times 1$ $= 4$ ・分数にすれば、逆数を使ってわり算の計算を全てかけ算の計算に置き換えることができる。	・全体交流では、A 小数を分数に直して計算する考えと B 分数を小数に直して計算する考えのどちらも答えが等しくなることを確認する。 【個別最適な学び】 ・個人追究の際、児童が必要に応じて、学び方を選択できるようにする。①ヒントカードを参考にする。②仲間の意見を参考にする。③教科書を参考にする。 ・全体交流後に、今後 A と B どちらの考えを使うと思うか、またそう思う理由を問うた後、類題を解く。 ・類題として、分数を小数で表すことができない問題を提示することで、B の考えでは解けない問題があることに気付かせる。 ・類題後、再度 A と B どちらの考えを使うとよいのか、またその理由を少人数で考え、表現する時間を設ける。 【協働的な学び】 小数を分数で表す良さ（①どんな小数でも分数で表せる、②逆数を使えば、わり算とかけ算がまじった計算をかけ算の式に統一できる）を実感させるために、「今後小数、整数、分数のまじったわり算やかけ算を解くときは、A と B どちらの考えを使うと良いのか、またその理由」について、少人数で、類題をもとに話し合う。 ・わり算をかけ算に直すよさや整数を分数で表す良さに気付かないときは、小数では表せるが計算すると答えが割り切れず、分数で表せば約分して簡単に答えを出せる類題②を提示する。 ・少人数交流後、A の考えを使えば、「どんな小数も分数で表すことができる」「わり算をかけ算に直すことができる」ことを全体で確認し、まとめへつなげる。 【終末ーできた・わかった】 「分数を小数で表そうとすると割り切れないことがあるよ。結局小数を分数に表す方法でやり直さなくてはいけないから、最初から小数を分数で表した方がよい。」 【評価規準】 小数、分数、整数の混じった乗法や除法の計算の仕方を理解している。（知識・技能）
まとめる	6 まとめ 小数、分数、整数のまじったかけ算やわり算は、小数や整数を分数で表して計算するとよい。 7 評価問題を解いて、振り返りをする。 ○練習問題を解き、振り返りカードを書く。	

令和6年度土岐市嘱託研修員会

「やってみたい」を引き出し、「できた」「わかった」と実感できる授業の実現～終末からの授業改善
実践報告 駄知中学校 福富 泰地

【日 時】令和6年 9月25日（水） 第5校時
【学 級】駄知中学校 1年B組
【单元名】言葉に立ち止まる「比喻で広がる言葉の世界」
【本時のねらい】

指定された図を説明する際に比喻表現を用いる場合とそうでない場合を比べる活動を通して、使う言葉の数や文の長さ、物事の伝わりやすさに違いが出ることに気づき、比喻表現がもつ「形状をわかりやすく伝える効果」と「物事の特徴をより生き生きと印象づける効果」のよさを実感することができる。

描く具体的な終末の姿

- ・比喻がもつ「形状をわかりやすく伝える効果」と「物事の特徴をより生き生きと印象づける効果」を理解し、そのよさを自分の言葉でまとめている。

【導入】課題意識

「あれ?」「なぜだろう?」「やってみたい!」

本当に比喻を使わないと表現できないのかな。



比喻を使わないと、どれくらい表現が難しいのか、またどのような表現になるのか興味をもたせる。

【終末】学びの実感

「できた!」「わかった!」「もっと知りたい!」



比喻には二つの効果があって表現しやすい。日常生活でも使いたいな。

活用した共有ノートを個人ノートに切り替える。見返しながら本時の学習内容を振り返り、まとめが書けるようにする。

【展開】個別最適な学びと協働的な学び

「～すればよいのかな?」「～してみよう!」「～に聞いてみよう」「そうか!」「なるほど!」

個別最適な学び

手がかりとなる言葉が思い浮かばない生徒に対してのヒントカードをロイロノート上に用意する。



協働的な学び

ロイロノート上で意見を出し合う。似た意見は共通点としてまとめる。単独の意見は、理由を仲間に話し共有することで比喻に対する見方・考え方を広げることにつながる。



実践を終えて

- ・班で比喻表現を用いる文とそうでない文を作ること、比喻表現を用いない際の表現の難しさを共有することができ、比喻表現のよさを理解させたり実感させたりすることができた。
- ・班交流や全体交流では、ロイロノートのシンキングツールを切り替えていくことで、比喻表現のもつ良さを可視化し、終末の振り返りにつなげることができた。

展開詳細

	学習内容および学習活動	指導・援助
課題をつかむ	1 前時の振り返り ○比喩の定義と2つの効果を確認する。 ・比喩の定義…ある事柄を、似たところのある別の事柄で表すこと。 ・2つの効果 …①形状をわかりやすく伝える。例「ドーナツのような形」 …②物事の特徴をより生き生きと印象づける。例「雷のような大声」 2 課題の提示 ○P74L14『もし比喩を使わないとしたら、言葉を尽くしても、伝えることは難しいのではないだろうか。』に着目する。	・段落の構成に触れながら、本時扱う比喩の定義や比喩の効果が説明された段落を確認する。(3, 4, 5 段落) 【導入】課題意識 比喩を使わないと、どれくらい表現が難しいのか、またどのような表現になるのか興味をもたせる。
	比喩を使うことの良さと、どんなことだろう 3 P76の図について、比喩を使う場合と比喩を使わずに説明する場合を考え、表現にどんな違いが出るかを話し合う。 個人 ○比喩を使って説明する文を考える。 ・「三日月のような形」、「笑っている口が斜めになったような形」、「バナナのような形」 個人 ○比喩を使わずに説明する文を考える。 ・「曲線と曲線に囲まれた弓なりの形」、「半円の一部を削った形」 深める 班 ○説明文を交流し、比べたり合わせたりしながら班で説明文を作りロイロノートで提出する。 全体 ○比喩を使う場合と使わない場合について感じたことや考えたことを交流し全体で発表する。 ・比喩を使う場合…説明がしやすい。短い言葉でイメージや様子が伝わる。→①形状をわかりやすく伝える効果 ・使わない場合…説明はできるが言葉が長くなりがち。イメージや様子が伝わりづらい。 まとめる 4 「彼女はとても明るい人だ。」と「彼女はひまわりのように明るい人だ。」比べ、表現にどんな違いが出るかを考える。 ・「ひまわりのように」の方が明るく感じる。 ・色や花の様子まで伝わってくる。 ・比喩を使うとただの明るさだけでなく、ひまわりから連想させる色や花がもつイメージまで伝わり、明るさがより強調されている。 →②物事の特徴をより生き生きと印象づける効果。 5 学習を振り返る。 ○課題に対する答えと比喩を使うよさをまとめる。 ○学び方の振り返りと授業の感想を書く。	【展開】個別最適な学び 展開3の個人追究の際、手がかりとなる言葉が思いつかない生徒に対してのヒントカードをロイロノート上に用意する。 曲線…直線でないすべての線を表す言葉 半円…円を直径で半分に切断した図形 弓なり…弓のように曲がった、あるいは反り返った形 【展開】協働的な学び 展開3の班交流の際、ロイロノートの共有ノート上で意見を出し合う。似た意見は共通点としてまとめて並べる。単独の意見は、そう考えた理由を仲間に話し共有することで比喩に対する見方・考え方を広げることにつなげる。 ・展開3の班交流では、「なぜ説明しやすいのか、なぜ説明しにくいのか」理由を明確にさせカード化させることで、話し合いの内容を深める。 ・展開3の全体交流では、生徒から出た意見を共有ノートに集約していき、シンキングツールの切り替えをすることで比喩のよさをまとめ、効果①につなげる。 ・展開4も生徒の意見を共有ノートに集約し、比喩のよさをまとめ、効果②につなげる。 【終末】できた・わかった 展開5では、活用した共有ノートを個人ノートに切り替える。見返しながら本時の学習内容を振り返り、まとめが書けるようにする。 【評価規準】 比喩がもつ「形状をわかりやすく伝える効果」と「物事の特徴をより生き生きと印象づける効果」を理解し、そのよさを自分の言葉でまとめている。(知識・技能)

「誰一人余すことのない」土岐市の全ての子どもたちを大切にする教育の推進へ

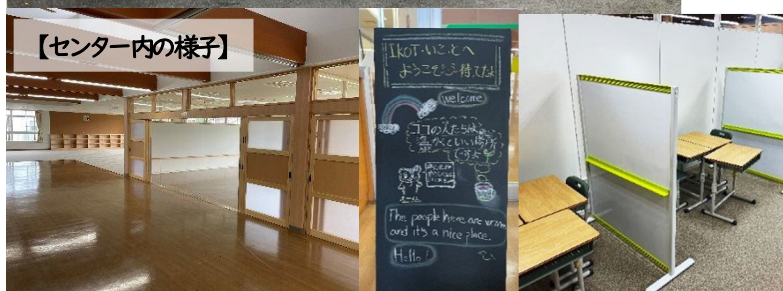
土岐市教育支援センター「IKOT・いこっと」開所しました

【開所式の様子】



教育センターに“行くことにしよう”の「行こっと」です。子どもや保護者に教育や家庭生活の悩みがあれば、気軽に相談に来てほしいという願いがあります。また、TOKIを逆さから読むとIKOTになります。タガログ語で「つなぐ」という意味もあります。

【センター内の様子】



理念:土岐市教育支援センター「IKOT・いこっと」は、

悩みや困り感を抱える子どもたちや保護者の課題を整理し、課題の解決を関係諸機関との連携により支援し、子どもたちの社会的自立をめざす機関です。

いじめや不登校、児童虐待や貧困など、子供たちが抱える悩みや不安、困り感や生きづらは多様化、複雑化しています。そんな困難さを抱えた子供たちを受け止め、寄り添いながら、未来に向けての一步を踏み出す支援を、教育支援センター「IKOT・いこっと」を拠点に進めます。温かな人とのつながりの中で、それぞれの個性を伸ばし、自分の力で未来を切り開くことができるよう、学校・家庭・関係諸機関と連携し、幼保から高等学校に至るまで切れ目のない支援を行っていきます。

不登校支援機能

- ・センターへの通所支援
- ・ICT支援
- ・アウトリーチ（訪問支援）
- ・保護者相談 など

教育(発達)相談 家庭児童相談

- ・発達相談・就学相談
- ・発達検査(WISC等)の実施
- ・虐待対応・養育相談
- ・総合相談窓口 対応 など

外国人児童生徒支援

- ・日本語初期指導
- ・日本語指導に関する助言
- ・進路相談
- ・保護者相談・支援 など

【IKOTの職員】よろしくお願いします。

所長(西尾次長が兼務) 副所長(保母) 事務(志水)
SSW(永治) 不登校支援コーディネーター(小木曾) 外国人児童生徒コーディネーター(林愛)
教育相談アドバイザー(渡邊・安藤) 不登校支援員(加藤千) 日本語指導員(加藤ヨ)
カウンセラー(戸田 櫛田) 指導員(林宏・佐々木・柘植)

一人一人の子どもやその保護者に、切れ目のない支援体制を築いていくために学校や関係機関との連携は不可欠です。よろしくお願いします。先生方が日頃の教育活動の中で、悩んでいることなども是非ご相談ください。





「教材との出会い」

濃南小・中学校 副校長 加藤 宏峰

十数年前、成人の日を祝う会に呼ばれた折、ある教え子が話しかけてきました。

『先生、去年の夏に平泉に行ってきました！中3の時におくのほそ道を勉強したときから、ずっと行きたいと思っていたんです。』

平泉のこと、中学校の時のこと、あれやこれやと話をしてくれた彼。成長した姿を見つめながら、中学校を卒業して5年が経った今もなお、中学3年の時に学習した「おくのほそ道」が彼の中に残り続けていたことをうれしく感じたことを覚えています。

私たち教員には、児童生徒に学力を付けるという重要な使命があります。しかし、それだけではなく、児童生徒と教材とをうまく引き合わせるといふ大切な役割もあります。教材との出会いが児童生徒にとって大きなきっかけとなり、進路決定

や職業選択にも影響を与えることもあります。そう考えると、単元や教材の魅力を児童生徒に伝え、教材とのよき出会いを演出することも私たちの使命だと思うのです。

彼との会話から、大切なことを気付かされた私は、教材研究において、教材の魅力を伝える工夫も取り入れながら授業を仕組んできたつもりです。すべての教科に教材との出会いがあります。日々の授業を通して、児童生徒の中にずっと残り続けるような教材との出会いを演出できたら、なんて素敵なことでしょう。

そういえば、京都の石清水八幡宮にも行きたいと言っていた彼。昔話も含め、また彼と話せる時が来ることを楽しみにしています。



○ 【イタリア文化会館 - 大阪より 土岐市の小中学校に本をいただきました】 ○

【各小学校へ】 絵本5種類

ピンパ Pimpa (原語 - イタリア語版)

ピンパ Pimpa (日本語版)

ピンパ Pimpa (英語版)

ジェロニモ・スティルトン・赤 Geronimo Stilton - Red (原語 - イタリア語版)

ジェロニモ・スティルトン・赤 Geronimo Stilton - Red (英語版)

土岐市とイタリア北部のファエンツァ市との姉妹都市提携45周年を記念して、各小・中学校に本をいただきました。



【各中学校へ】 日本語翻訳版文学書1種類と絵本2種類

ダリオ・フォー喜劇集 (日本語版)

ジェロニモ・スティルトン・青 Geronimo Stilton - Blue (原語 - イタリア語版)

ジェロニモ・スティルトン・青 Geronimo Stilton - Blue (英語版)

【上記の本の紹介】

◆ピンパ

赤い水玉模様をもつ犬の女の子を主役としたフランチェスコ・トゥーリオ・アルタン氏の作品。ピンパが出てくる世界は、娘から受けたインスピレーションにより、作者のアルタンが作り出したもので、ピンパと同居人のアルマンドを通して、大切なことを小さな子ども達に伝える作品。

◆ジェロニモ・スティルトン

イタリア生まれのジェロニモ・スティルトン・シリーズ。現代社会を模したネズミの国の新聞社のジェロニモ・スティルトンが主役の冒険物語。

◆ダリオ・フォー喜劇集

現代イタリアを代表する劇作家・俳優ダリオ・フォーの作品。政財界からローマ教皇庁にいたる体制の腐敗や横暴を戯画化するとともに、様々な問題を抱える現代社会を痛烈に風刺・批判した作品。